

阪神・淡路大震災から 25 年

写真は読売新聞 1 月 5 日の「全国地震動予測地図」。2018 年 1 月 1 日から 30 年以内に震度 6 弱以上で揺れる確率、地震調査研究推進本部提供の図を加工とある。大阪にも甚大な被害をもたらす、南海トラフ巨大地震がとりわけ不気味である。

阪神・淡路大震災から今日で 25 年が経過する。ここでは、震災から 20 年、2015 年 1 月 17 日に書いたレポートを紹介する。(一部修正)

今日 2015 年 1 月 17 日は、阪神・淡路大震災から 20 年という節目を迎えた。あの時、午前 5 時 46 分、巨大地震が神戸をはじめとした阪神地域を襲った。名古屋でも揺れを感じたが、寒い冬の早朝でもあり床を離れなかった。

テレビから流れてくるニュースから、しだいに大変な災害であることが伝わってきた。世界でも有数の大都市圏である阪神地域は、空前の被害を受けた。なかなか現地に行けなかったが、やっと 1 ヶ月後の 2 月 17 日に神戸に行った。新幹線で新大阪まで行き、在来線に乗り換えて、途中から代替バスで三宮に着いた。まだ震災の臭いが立ち込め、マスクをして歩いた。

20 年前にデジカメで多くの写真を撮った。それを iPad で撮り直した 4 枚の写真である。写真上は神戸市役所の 1 階ホールで、まだ多くの人たちが避難しており混乱している様子であった。その右は新長田近くの高速度道路である。強固で安全といわれていた高速度道路が脆くも崩れ、復旧工事が進められていた。

下 2 枚は、大火災に見舞われた長田を歩いた時に撮ったものである。震災から 1 ヶ月が経っても、震災の被害が生々しく残っていた。焼けた家や車、がれきを見て、ここで犠牲になった人のことが心に迫った。安否を知らせ、転居先などを書いた看板が印象に残る。こうして写真を眺めていると、20 年前の記憶がよみがえってくる。



(2020 年 1 月 17 日)